

大東亞戦争とわれら

教
学
局
編



* 0055414000 *

0055414-000

390.4-Mo31ウ

大東亞戦争とわれら

文部省教学局

昭和17

AJA

917
828

大東亞戦争とわれら

教
學
局



390.4
Mo.31



米國及び英國に對する宣戰の詔書



詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有眾
ニ示ス
朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ
朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總
力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ
抑東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ不顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作
述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂
ヲ備ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト覺端
ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ
眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシ
メ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提
攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙未タ牆ニ相闔クヲ

倭メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋
制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ我ニ
挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存
ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキ
ニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ
益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セ
ムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕
セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナ
キナリ
皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有眾ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速
ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日



大東亞戦争とわれら

發行所寄贈本

目次

一、大東亞戦争はどうして起こったか……………一
二、宣戦の大詔くだる……………一五
三、戦争に勝ち抜くために……………二六
 (一) たゆみなく生産擴充に進まう……………二六
 (二) 勤勞こそわれらの力……………三七
 (三) ふだんの生活が戦争である……………四二
むすび……………五二

大東亞戦争とわれら

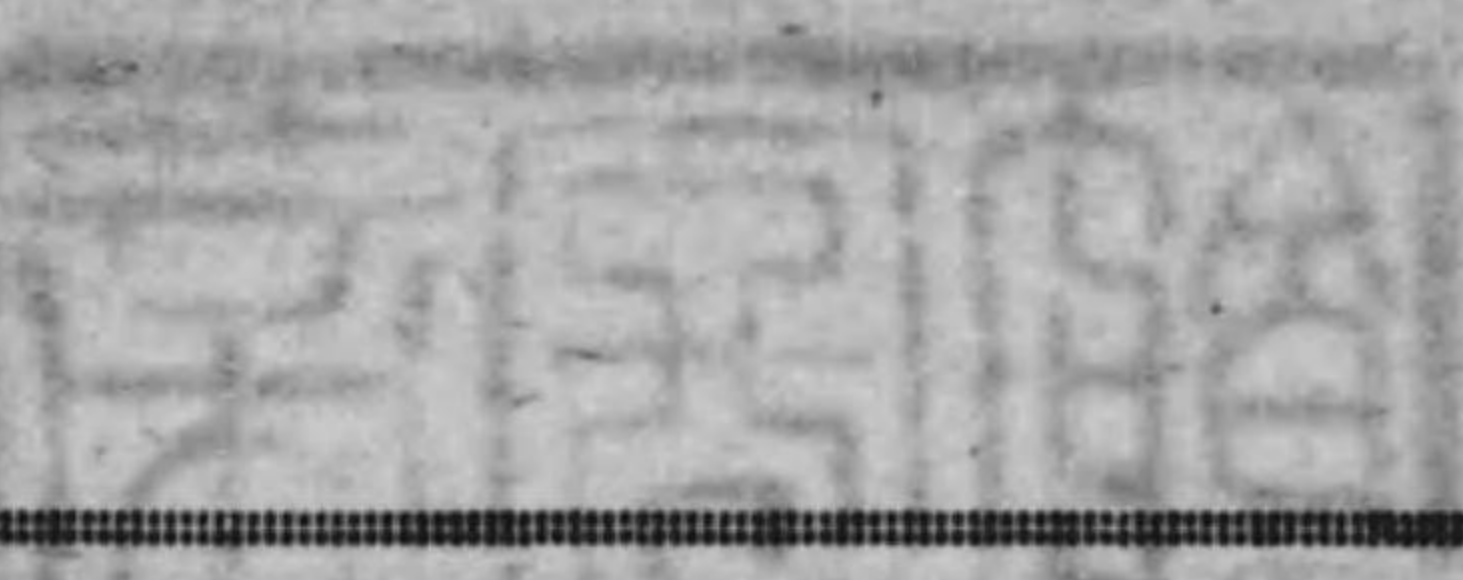
大東亞戦争はどうして起こったか

昭和十六年十一月八日、私ども國民は米國及び英國に對する宣戦の大詔を戴いた。この日、わが陸海軍はつひに米英の兩軍と西太平洋において、決死の戦ひを開始した。その日まで來る日も來る日も、我慢に我慢を重ねて來た一億國民が、つひに勘忍袋の緒を切る日が來たのである。

米英は支那を手先にした

思へば、支那事變が始まつてから早くも五ヶ年の月日がたつた。皇軍は蔣

大東亞戦争はどうして起こったか



介石の軍隊をうち破り、その重要な據り所をことごとく陥れた。蒋介石は奥地の重慶へ逃げこみながら、それでもなほ、長期戦の最後には日本に勝つのだと、口先だけの強がりをつけてゐる。小銃や大砲、戦車や飛行機など、何一つ自分の力で満足に造ることのできない重慶政權、四億の民衆をさんく苦しめた末、國內の重要な地方をすべて失つてしまつた重慶政權が、なほも抗戦を続けることができるのはなぜであるか。それは、アメリカやイギリスなどが蒋介石のうしろだてとなつてゐるからだ。それではアメリカやイギリスがなぜ蒋介石を援助するのか、その魂膽はいつたいどこにあるのかといふと、つまるところは、日本を苦しめ弱らせたいといふこと以外にはないのである。

米英の野望は昔からである

アメリカやイギリスは、早くから東亞を思ひのまゝにすることをもくろんで

ゐた。そのためには、ずるぶんひどい手段を平気で用ひて來た。イギリスの寶庫といはれる印度はどうであつたか。印度は昔は世界で指折りの農業國として富んでゐたのに、悪がしいイギリスの手がのびてからは、農産物は思ひ切り安値でそつくりさらはれるし、以前からの工業はイギリスの機械工業に押されて倒れてしまひ、住民たちは否應なしにイギリスの商品を買はされた。何とか工面をしてこの苦境からのがれようとする者には、高い利子で金を貸しつけて、かへつてますます身動きならぬ状態に陥れた。かうして、イギリスのためですつかり荒らされた印度に、饑饉や疫病の流行が続いて、三億の住民が苦しみにゐてゐるとき、英本國の首都ロンドンの商店街は日一日と賑やかに榮え、イギリスはいよゝゝ肥え太つていつた。ビルマもマレーも、同じやうな仕方で、二重にも三重にもイギリス本國にしばりつけられて來た。

オーストラリア(濠洲)も、イギリスのためにはひどい仕打ちを受けた。非道

大東亞戦争はどうして起こつたか

にもイギリスは住民をいちめぬき、カンガルイ狩りでもやるやうに撃ち殺したりなどして次第にかれらを滅亡させ、今日では、わが國內地の二十倍もある廣大なこの土地を、僅か東京市ほどの人口の英國人で獨り占めにしてしまった。これらの東亞から大洋洲にわたるイギリスの領土は、今度の戦争が起ころまでは、本國の何十倍といふ廣さにおよんでゐた。

一方アメリカは、幕末にイギリスが香港を奪ひ取つて、支那を苦しめてゐた頃、通商にかこつけて、日本を手に入れようと乗り出して來た。その時浦賀に來た黒船は、談判がうまくゆかないと見ると、品川沖にまで姿を現はして、我が國をおどしつけようとした。それは、ちやうどイギリスが印度や支那に對してとつたのと同じ手段であつた。しかし日本は、こんなおどかしにひるまず、口先だけの甘い言葉にもひつかゝらず、維新の大業をなしとげて乗ずる隙を與へなかつた。

かくて、日本にはつひに一指も觸れることができなかつたアメリカは、今度は目先きを變へて、ハワイに革命を起こさせ、その騒ぎにつけてこんで、これを占領した。またスペインと争つてフィリッピンやグアムを奪つたが、そのとき、フィリッピンの住民には獨立の援助をしてやるといつて、スペイン軍と戦はせておきながら、戦ひが終はると、うま／＼と全島を自分の領土にしてしまつた。

日本はひるまず伸びてゆく

かうして、東亞の諸民族は國土を奪はれ、多數の住民たちの生活はおびやかされるに至つた。このやうな東亞の情勢のうちに、ひとり日本は明治二十七八年の日清戦争、明治三十七八年の日露戦争によつて、東亞安定のためにつくし、政治・經濟・教育・學問等すべてにわたつて、國運は日に月に發展した。かくして、製絲・紡績等をはじめ各方面の産業は盛んに興り、鐵道・海運は開け、貿易も

大東亞戦争はどうして起こつたか

めざましく躍進し、日本の商品は支那をはじめアジアの各地に行きわたりはじめた。

かうなると日本が目のかたき

これでは、東亞各地の資源を獨り占めにし、自國の製品をそれらの地方に賣りさばいて莫大な利益ををさめ、自分の國だけが榮えてゆくやうにといふ蟲のい、考へを方針として來たアメリカやイギリスにとつては、日本が目の上の瘤のやうに邪魔である。

さらに、この前の世界大戰で、ドイツは戰爭に負け、ロシアは革命で國が倒れかゝり、フランスやイタリヤもたいして實力がないと見てとつたアメリカとイギリスは、日本さへおさへつけければ、支那も滿洲も自分のものとなつたも同様だし、さうなれば、東亞ばかりでなく、世界全體を自分たちの思ひのまゝに支配

できると考へた。日本がこのうへ發展し、いつそう強くなることは、かれらには何としても都合が悪い。そこで、日本を弱めることを、ひそかに思ひめぐらしはじめた。

ワシントンやロンドンでの會議

かういふかれらの策謀は、世界大戰後三年目の大正十年に、ワシントンで開かれた軍備縮小の會議にあらはれた。この會議で、五・五・三の比率が定められた。それはアメリカとイギリスがそれ／＼主力艦五十萬トンを持つとすれば、日本は三十萬トンしか持つことができないといふのであつて、日本は海軍兵力で米英より劣つた低い所に釘づけにされたのである。その後昭和五年には、ロンドン會議が開かれ、そのときまたしても、アメリカとイギリスはしめしあはせて、今度は日本の補助艦の總トン數を米英の七割足らずに釘づけした。

大東亞戰爭はどうして起こつたか

日本は世界の平和を望んでゐたからこそ軍備縮小の相談にも應じたのであるが、アメリカとイギリスは結局は、平和の美名にかくれて日本の発展をおさへようとしたのである。

ワシントン會議の際にはまた、太平洋の島の中で、ハワイやシンガポールにはいくらでも軍備ができるやうにしておきながら、他の島々には新しく軍備ができないやうにしたり、あるひは太平洋の島々の安全保障に名をかりてわが國防をおびやかすやうな條約(四國條約)や、支那の領土を守つてやるといふことにかこつけてこれらの利益をほしいまゝにすることのできるやうな條約(九國條約)をとりきめた。かやうにアメリカやイギリスは自分たちに都合のよい手段によつて、日本の発展をさまたげることになつた。また一方では、個人主義や民主主義や社會主義など、たうてい我が國の國がらとあひいれない思想を盛んに送りこんだり、浮はつた薄つべらな風俗を日本の國內に流行させて、勤勉

で質素な日本人を墮落させようとはかつた。さらにアメリカは日本人の排斥を行つて、大正十三年には、日本の移民の入國を全く禁止した。イギリスはイギリスで、ほかの國々を誘つて、日本の商品に高い税をかけ、輸入の制限も行つて、日本の商人を壓迫したりした。さうして、イギリスなどの勢力を何とかして追ひ拂はうとしてゐた支那まで、とうとううまくまるめこんで、日本排斥運動に引き入れ、大陸から日本商品を追ひ出し、裏からは自分たちの商品を賣りこまうといふ一石二鳥の手をも用ひた。

滿洲事變にも策謀

支那はこのやうな米英のやり方と妥協していつた。自分たちがこれまでイギリスやそのほかの歐米諸國に、どんな目にあはされたかを忘れ、將來またどんな目にあふであらうかを深く考へもせず、米英と結び、その手先きとなつて、

大東亞戦争はどうして起こつたか

日本を排斥することを企てた。日清戦争・日露戦争このかた、大陸に築いて来た日本の正しい地位を、支那は米英の尻押しによつてふみにじり、大陸から日本の力を引きはらはせようとした。満洲事變はかうして惹き起こされたのである。

昭和六年九月、満洲事變が起ると、イギリスは國際聯盟を動かして日本をおさへにかゝつた。アメリカも、國際聯盟に加入してゐなかつたのに、その總會に特別の使者を送つてイギリスと力をあはせた。大東亞戦争勃發の日から、ちやうど九年前の昭和七年十二月八日、松岡代表は我が國の東亞における當然の地位を正々堂々と主張したが、國際聯盟は支那をおだて、正當な日本の主張には全く耳を傾けず、満洲國の成立を認めようとしなかつた。これで米英が音頭をとる國際聯盟の正體が何であるかは明らかとなつた。昭和八年三月、我が國はいさぎよく國際聯盟を脱退した。

支那事變ではいよく盛んに策謀

かういふ米英のやり方に支那はますますつけあがり、そのうへ共産黨の巧妙な抗日運動にも乗せられて、昭和十二年七月七日、蘆溝橋畔における支那兵の日本軍隊に對する挑戦となり、やがてそれが大きな支那事變となつた。それからの米英の日本に對する意地悪い仕打ちの數々は、國民の忘れようとしても忘れることのできないことばかりであつた。東亞の國々が親子兄弟のよしみを結んで一致協力しあひ、ともに築えてゆくやうな平和な正しい状態をうちたてること、すなはち東亞新秩序の建設といふ大事業に日本が國を擧げて努力してゐるのに、米英は蔣介石を援けて事變を長引かせようと、ことごとくに日本の努力に邪魔をした。さうして、これで日本は弱つてゆく一方だし、支那もまたいつそう動きのとれぬ苦しい状態となるに相違なく、いよくアジャの地を思ふ

大東亞戦争はどうして起こつたか

存分に支配できるとほくそ笑んでゐたのである。

日本を包圍しようとした

ヨーロッパでは、昭和十四年秋からドイツはイギリスと戦争を始め、翌年にはイタリヤもドイツ側に参戦した。日本は世界に正しい平和をもたらさうとする志を同じくする立場から、獨・伊兩國と三國條約を結んだ。これに對してアメリカは、イギリスや蔣介石軍の一大兵器工場となつて、かれらにはあらゆる物資を送つて援助した。さうして、日米間の通商條約を勝手に破り棄て、日本には一滴の石油も一片の屑鐵も輸出しないことにしたり(通商航海條約破棄)、そのうへイギリスやオランダなどとしめしあはせ、それらの本國や領土にあつた日本の財産を自由に動かさないやうにして、日本人が經濟的にどうにもならないやうにしてしまつた(資産凍結令)。さらにイギリスや重慶政權や蘭印と

結んで、いはゆるA(アメリカ)・B(イギリス)・C(支那)・D(オランダ)包圍陣を固め、北の方ではソ聯に誘ひをかけて、今にも日本をもみつぶすぞといはんばかりの掛け聲で、我が國をおびやかして來た。

かうした動きのうちにはありながらも、我が國はアメリカと話し合つて、おだやかに事をさめようとした。そのために野村大使は骨身を砕く努力を重ね、後には齋藤大使も特派されて交渉したが、あくまで日本を見くびつた大統領ルーズベルトは、我が國の立場を全く無視し、過去長い間の尊い努力を水の泡にさせるやうな、無法な要求をくりかへした。最後には、支那および佛印から撤兵せよ、南京の國民政府とは縁を切つて蔣介石と手を握れ、日・獨・伊三國條約は破棄せよ、と主張して、たうてい我が國が立つてゆけないやうな勝手極まる話を押し通さうとした。

日本つひに立つ

これでは國民のたれ一人憤慨しないものはないはずである。靖國神社に神鎮まります多くの英靈のことを思ふだけでも、承知できる相談ではない。アメリカがイギリスと手を組んで、それほど日本に我慢のできない要求をして戦争をいどむならば、よし、いさぎよく一戦しよう。今こそ正義を貫ぬく日本の力がどんなものであるかを思ひ知らせてやらう。國民の一人々々たれもかも、かういふおさへ切れない氣持ちとなつた。このとき、畏くも米國及び英國に對する宣戰の大詔は渙發せられたのである。

二、宣戰の大詔くだる

その日の感激

帝國陸海軍ハ今八日未明西太平洋ニオイテ米英軍ト戰鬥状態ニ入レリといふ大本營の發表は、私ども國民の魂を眞底からゆりうごかした。いよく來たるべきものが來たのだ。それまでのつかへてゐたやうな重苦しい氣分は一へんにうち晴れて、その朝はみなれた故郷の山々や街々のながめも、清く澄みわたつたやうに見えた。私どもがすべての力をつくして、大君の御ため、御國のために御奉公すべきときが來たのだと思ふと、少しぐらゐのかぜでは寢てもをれぬととびおきて、坑内(やま)にはいつて行つた鑛員もあるし、日頃自分の身も心もうちこんで來た旋盤に向かつて、おぼえず合掌した工員もある。かうし

宣戰の大詔くだる

て私どもの氣持ちは一つに引きしめられ、誓つてこの國土を守り、米英を討ちに討たんと固い決意に燃えたつた。まもなくラジオの放送する宣戦の大詔の奉讀を私ども國民はつゝしみつゝしんで拜承した。さうしてそのうちに、帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリと仰せられた御言葉を拜しては、陛下の大御心のほど、いかばかりかと熱い涙が流れ出た。「天皇陛下の御ために」私どもは腹の底から我が身を捧げまつる時が來たと思つた。この日に生まれあはせた國民の誇りに、たれもかもいよく心が躍り、血が湧き立つのを感じた。

連戦必勝

ハワイ・シンガポール・フィリッピン爆撃、香港攻撃、マレー半島上陸とその日

のうちにつぎ／＼と傳へられる皇軍の電撃的な活躍は國民の目をみはらせた。しかもその戦果は明らかになればなるほど大きく、開戦第一日でアメリカの太平洋艦隊をほとんど壊滅し、ついでマレー沖では、みづから世界第一の海軍國と稱したイギリスの秘藏する戦艦二隻を物のみごとに撃沈して、その東洋艦隊の主力を覆滅した。その後も皇軍は陸・海・空力をあはせ、神速果敢、巧妙な作戦をもつて、敵が長い間かゝつて築きあげた據點をあひついで攻略した。グアム・ウエーキ(今の大島島)・香港・マニラ・マレー半島・シンガポール(今の昭南島)・ラングーン・蘭印など、僅か三ヶ月の間に全く皇軍の手に歸してしまつた。

かうして敵國の日本攻撃の足場はなくなつてゆき、平素アメリカやイギリスが豪語してゐたことは正反對の結果となつて來た。世界の陸地の四分の一までも自分の領土にして威張つてゐた老英帝國の屋臺骨はぐらつきはじめ、また

宣戦の大詔くだる

太平洋を我がもの顔にふるまつたアメリカは、軍艦や商船がつぎつぎに沈められても、まるで海軍力を持たない國のやうに、手も足も出せないありさまとなつた。

なぜこんなに強いのか

皇軍が世界に比類なく強く、かういふすばらしい戦果をあげることができるのは、いふまでもなく、ひとへに天皇陛下を上^{かみ}に戴^{いた}く我が國がらの有難^{ありがた}さによるのである。

皇軍將兵はいつの戦ひでも命を大君に捧げ、どんな苦勞にも困難にもうち克つて天皇陛下の御ために盡くすのである。今度の戦争でも開戦の第一日に我が航空母艦と海鷲は、たうてい空襲など思ひもよらぬ悪天候を冒して、ハワイを急襲したのであつた。また陸軍も開戦と同時にマレー半島のコタバル沿岸に壯烈

な敵前上陸を敢行したが、この時まだ有力な海空軍を持ち、海岸には嚴重な防禦陣地を築いてゐた敵は猛烈な抵抗を加へて來た。しかし我が將兵の意氣はすこしもひるむことなく、言語に絶する苦勞にうち克つて、つひに上陸に成功した。

フィリッピンやマレーやビルマの陸軍部隊は、敵が人間業では通れるものではないと信じてゐたジャングルの中を猛獸や毒蛇を物ともせず、切りひらき踏み越えて、敵を思ひがけぬ方面から撃破してこれを慄へあがらせた。戦線の詳しい話を聞けば、風速二十メートルの烈風下に行はれた敵前上陸とか、あるひは聲をかぎりに天皇陛下の萬歳を叫びつゝ、トーチカにだきついてその銃眼をふさいだ勇士のこととか、涙のにじむやうな話が、數かぎりもなく傳へられてゐる。中でもハワイ海戦に参加した特別攻撃隊の働きは、眞に護國の華であつた。岩佐中佐はじめ九人の若き勇士は數ヶ月前から固く一死報國を期し、精魂を傾

宣戰の大詔くだる

けてみづから工夫設計し訓練を積んだ特殊潜航艇で、敵の軍港眞珠灣内深くは
いりこみ、夜にいるまでも港内に潜んで、生き残った敵の戦艦をみごと撃沈し、
みづからはつひに還らず任務を全うしたのであつた。その忠烈勇武は軍神と
してたれ一人崇めぬものはない。これを何萬といふ兵力を持つてゐながら白旗
をかゝけて捕虜となり、これで十分戦つたから自國（くに）の人も自分の働きを
ほめてくれるだらうといつてゐるやうな敵軍の態度に比べれば、全くお話にな
らぬ違ひである。皇軍將兵のこの意氣この精神こそは、上に天皇陛下を戴く他
國に比類のない國がらに養はれた賜ものでなくて何であらう。

海行かば 水漬く屍 山行かば 草むすかばね

大皇の 邊にこそ死なぬ かへりみはせじ

萬葉集に出てゐるこの歌の精神こそ、私ども國民の傳統的精神にほかならぬ。
今から千二百年前の兵士（つはもの）が、大君の御ため喜び勇んで一身を捧げた

てまつる眞心を示した歌は、萬葉集にはなほ數多くあるが、その盡忠の眞心
は、今の軍人の精神の中に脈々と流れ傳はつて來てゐる。六百六十年前の元寇
の時には河野通有・竹崎季長などが小舟に乗つて敵の大船にをどりこみ、敵を
斬つて斬つて斬りまくり、蒙古の大軍のどきもをぬいてしまつたが、この意氣
この精神こそは、日清・日露の戦役をはじめ、滿洲事變・支那事變にもうけつが
れ、我が國民の忠勇無比なる大和魂となつて發露してゐるではないか。この
やうに我が國民は、いつの時代にも忠誠勇武なる傳統的精神に充ち充ちて我
が國土を守り、あだなす敵を撃滅して來たのである。

征戦の大目的

今度の宣戦の大詔には、

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有眾ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖

宣戦の大詔くだる

宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

と仰せられてある。すなはち皇祖皇宗の神靈の御加護のもと、國民の忠誠勇武により、皇祖が國を肇めたまうてこのかた、御歴代の天皇のうけつぎたまふ大御業をおしす、められて、我が國に對する米英その他の國々の禍をとりぬき、東亞永遠の平和をうち立てて、大日本帝國を彌榮えに榮えしめんと念じさせたまふ大御心を拜するのである。私ども日本國民は、近くは日清・日露の戦役にも、滿洲事變・支那事變にも、つねにこの大御業を翼賛したてまつる國民のつとめを實踐して來たのである。今こそ、大詔のもつたいない思し召しを奉體し、忠誠勇武なる傳統的精神をますます發揮して、敵をうち破り、このたぐひなき大御業にいよく御奉公申し上げることができるのは、國民として何たる感激であらうか。

かゝるたぐひなき大御業を今日この御代におしす、められること、これがすなはち、今度の大東亞戦争をなしとげねばならぬ眞の意味である。

大詔には、

抑、東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ至顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕力拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ

と仰せられてある。まことに、大東亞戦争完遂の大目的は、國民こそつてこの大御業を扶けまゐらせ、もつて東亞を安らかにし、世界に平和をもたらし、萬邦(せかいのくに)が各、その所を得て、あひともに榮えゆくやうにするこゝとであり、それこそは、國の肇めからの大精神(肇國の大精神)、すなはち「八紘(あめのした)を掩ひて宇と爲す」(八紘爲宇)の大精神に基づくものである。

宣戰の大詔くだる

八紘爲宇

八紘爲宇とは、神武天皇が大和の橿原に天下の中心となるべき都を御奠めになつたときの詔の中に、仰せられてある御言葉である。

この詔に、天皇は、皇祖の大御心を體して、その御精神をいよくお弘めになり、あまねく天皇の御稜威が行きわたたり、天下が天皇を中心としたてまつる一家のやうな楽しい姿になるやうに、といふ思召しを宣はせられたのである。皇祖天照大神の大御心に基づかせたまふこの御精神は、御歴代の天皇のうけつがせたまふところであつて、大東亞に新秩序を建設する根本精神は、まさかこの御精神に基づくのである。すなはち、國が肇まつて以來のこの御精神を奉體し、大御業を翼賛したてまつつて、大東亞戦争にうち勝ち、東亞新秩序を建設することこそは、今日の私ども國民がせひともなしとげねばならぬ大使命である。

である。

大詔に應へたてまつらん

私どもはこの大御代に生まれ、この尊い大使命を擔つてゐる。國民として無上のよろこびであり、光榮である。おのづと心のひきしまるこの感激に、私どもは眞底から奮ひ起ち、前線に、職域に、身をなげうつて、今こそ大御心にてたへたてまつり、奉公のまことをつくす時である。

「詔を承りては必ず謹め」聖徳太子がお示しになつたこの御言葉、天皇の詔を戴いたならば、つゝしんで大御心を奉體せよ、といふ千三百年前の御教へは、現在の私ども國民の胸に、常に生き流れてゐる御言葉である。この「承諾必謹」といふ心持ちによつて、私どもはこのたびの尊い大詔を奉戴し、ひとへに大御心にそひたてまつらねばならぬ。

宣戦の大詔くだる

三、戦争に勝ち抜くために

(一) たゆみなく生産擴充に進まう

必ず勝つ

大詔を奉戴して立ち上がったからには、私どもの進むべき道はたゞ一つ、固い決心をもつてこの戦争に徹底的に勝ち抜くのみである。

皇軍は戦へば勝ち、攻むれば取り、つきつくとすばらしい戦果をあげてゐる。しかし敵は何しろ、資源に富む廣大な領土を持ち、今まで長い間世界中からたくさん原料品や食糧や金を集めて来た米國と英國である。かれらは何とか持ちこたへて戦争を長引かせ、その間に軍備を整へ、陣容を建てなほして盛りかへさうと苦心してゐる。もとく敵は決戦を避けて、長期戦に逃げこむ腹であ

つた。日本はすでに支那事變によつて、多くの金と物資とを使つて來てゐるから、米英に包圍されて長期戦となれば、たちまち物資はなくなり、やがて國民も疲れて屈伏するだらうといふのがルーズベルトやチャーチルの考へであつた。ところが、これは大間違ひで、日本は支那事變そのものには、事變の豫算の四割しか消費せず、あとの六割は今日のことを覺悟して、すべて軍備の充實と生産力の擴充とにふり向けて來てゐるのである。ことに國民の精神力は少しも弛まず、まだくらくらでも戦つてゆける實力があり、餘裕があつた。

また、支那事變で大陸の重要な軍事上の據點をおさへてあつたので、敵は支那を足場として日本を襲ふこともできないのである。それどころか東亞侵略の最大の根據地シンガポールまで失ひ、A・B・C・D包圍陣は夢物語となつてしまつた。米英はゴムや錫など軍需品の輸入に事缺くやうになり、はじめの皮算用とは逆に、かれらこそ封鎖されたありさまである。アメリカ本國はたいていの物が

戦争に勝ち抜くために

自給自足できる國だと威張つてゐた。けれども、ねち一つ足りなくても時計は動かないやうに、軍需品として缺くことのできないゴムや錫がなくては、アメリカのいきまいてゐる軍備擴張は、たゞのお題目にははるだらう。イギリスもアメリカからの援助が思ふやうに得られなくなるし、たのみとする濠洲や印度と切りはなされてしまへば、それこそ致命傷である。だから日本が大東亞をしつかりおさへ、必勝の信念をもつて推していつたならば、長期戦に參つてしまふのは必ず米英である。

戦争はまた建設

また、今度の戦争の目的はたゞ米英をうち破るばかりではない。米英を追ひ拂つた後の東亞が、ほんたうに榮えてゆけるやうに、建設してゆかなくてはならない。私どもは東亞各地の住民と力をあはせ、資源を開發して物資を融通し

あひ、産業や文化を進めて東亞全體をいつそう住みよくし、たがひにますます榮えてゆくやうにしなければならぬ。すでに大陸では建設の基礎を固め、今や香港でも、フィリッピンでも、マレーでも、東印度（もとの蘭印地方）でも力強く建設の第一歩を踏み出してゐる。だがしかし、この建設の大事業は、決して今日明日にできることではない。多くの困難をのり越えて、一步一步しつかりと築きあげてゆくのである。

決意を新たにして

私どもは緒戦の戦果や、建設の順調な踏み出しによい氣になつて慢心してはならない。油斷大敵、今こそ勝つて兜の緒をしめる時である。さうしてこの戦争がいかに長く續かうとも、私どもがほんたうに頑張り續けていつたならば、米英を心から「參つた」といはず、新しい東亞の建設が必ずできる。ある國民

戦争に勝ち抜くために

學校の少年は戦地の勇士に、「戦争は十年つゞけてください。すると僕たちは二十歳になるから、行つて一しよに戦をします。」と書き送つた。小さな國民はかうまで思つてゐる。この心がけに負けずに、長期戦に勝ち抜く覺悟を固めよう。私どもは老いも若きも、戦争が何年續かうが驚くやうな國民ではない。

鐵壁不敗の態勢を固めよう

地圖を見ればすぐわかるとほり、皇軍は、北はアリューシャン列島方面から、南は赤道を越えてはるか遠く濠洲に及び、東西はまさに地球の半周を越える廣大な地域にわたつて作戦を繰りひろげてゐる。世界の歴史にはじめて見るこの雄大な戦争をやりとげるには、我が國はあらゆる方面の力をいよ／＼國策に統一し、それを十分大きく動かすことが絶対に必要である。そのために政治のやり方も、經濟のやり方も、國民の生活の仕方も心構へも、すべて征戰の大目的に

一致するやうにたてなほさねばならぬ。一億國民が一丸となつてこれに力をあはせ、金や物資を何一つ無駄なく動かし、國家の總べての力をあげて戦つてこそ、ほんたうに敵米英を屈伏させる力が出る。

戦争には物が要る

最近の戦争では、いろんな物資が使はれ、しかもその量はとはうもなく大きなものとなつてゐる。年度の歐洲戦争が始まつた時、ドイツはまづ空軍によつてポーランドを襲つたが、その時の機銃掃射によつて消費した機關銃彈の總數は、はじめの三日間だけで早くも、前大戰の激戦地ベルダンで、ドイツ軍と聯合軍との双方が、四年間にわたつてうちまくつた機關銃彈の合計よりも多くなつたといはれる。またマレー沖で皇軍のために撃沈されたイギリスの戦艦プリンス・オブ・ウェールズのいつせいにうち出す對空防禦砲火は、一分間に六萬發

戦争に勝ち抜くために

もの弾幕を張ることができた。こんな工合ひであるから、各種の兵器を動員して陸・海・空一體となつて戦ふ現代戦では、恐ろしく物が消費される。軍艦や飛行機や戦車が非常に多く必要であり、それを動かすためには、重油やガソリンがたくさん要る。食糧の消費もたいへんなものである。また砲弾や爆弾もいくらあつても足りないくらゐである。

そのうへ今度の戦争は、非常に広い地域で行はれてゐる。そこで活動する軍艦や飛行機をどしどしつくつてゆかねばならぬし、建設に必要な多量の資材を生産してゆかねばならぬ。軍隊や食糧を運び、大陸や南方の物資を運ぶためにも、まだ多くの貨車や輸送船を用意せねばならない。

生産の力を出すために

かうして現在の戦争にはちよつと想像もつかぬくらゐたくさんの方が入用で

ある。國家の生産力はそれらの物の消費を十分補ふとともに、必要なものをどん／＼つくり出すために、最大最高の能率を發揮せねばならぬ。前の世界大戦の時ですら、前線に一萬の軍隊が活動してゐるためには、銃後に三萬の人間が生産に従事してゐなければならぬといはれたが、現代の戦争ではさらに多くのわりあひの人が生産に必要である。それほど、生産力の擴充と前線の活動とは切つても切れない關係にある。

ドイツやイタリヤはもちろん、今度の戦争が始まつてからは、アメリカもイギリスも、世界の國々は、あらんかぎりの人と物と金とを戦争のために動員し、死力を盡くして生産擴充をはかつてゐる。戦争は世界中どここの工場にも、鑛山にも、農村にも廣く擴がつて戦はれてゐるといへる。生産にたづさはる私どもものつとめは前線の將兵の任務におとらぬくらゐ重大なのだ。

産業を建てなほして

このやうに重大な生産の力を十分に發揮して、この大戦争に勝ち抜き、大東亞の建設をなしとげるためには、どうしても、國家の計畫にしたがつて重要物資の生産擴充がますますできるやうに、産業全體の編成替へをしなくてはならない。産業の仕組みを建てなほし、生産や配給の機構を整へ、技術の向上を計り、重要な方面に力を集めてこそ、生産力はいよゝゝ強大となる。それだから、産業のうちでも、日常生活品をつくる方面の産業は、戦時下の國民生活がでさる程度にその生産目標を定め、そこから生ずる餘分の人員や設備や物資は、すべて他の重要な生産擴充の方に振り向けねばならぬ。

それで中小商工業などにも整理統合による建てなほしが行はれてゐる。そのため、これまで築きあげて來た工場を閉鎖したり、店をた、んだりせねば

ならぬやうな事情も少くない。またゆくゝはのれんを分けてもらはうと志してゐた人も、國家のもつとも必要とする方面に轉業してゆくこともある。しかもこれらの轉業した多くの人々は、應召せられたと同じ氣持ちで働いてゐる。かうして我が國の産業は、戦争が何年續かうがびくともしないほど、力強くなつてゆくのである。

心をあはせてゆかう

戦地の工兵は自分の肩に橋を渡して、歩兵の渡河する道をつくる。「俺の背中が橋になるなら、俺の體を泥の河にも浸さう。」といふ氣持ちである。歩兵はまたこの尊い橋の上を「工兵さん、有難う。」といつて渡つて行く。一つ目的に向かつて美しく協力する工兵と歩兵の氣持ちになつて、私どもは國全體の生産の仕事が着々運ぶやうに、どのやうな方面にでも、進んで協力してゆかうでは

戦争に勝ち抜くために

ないか。

私どもが、命を捧げて御奉公してゐる前線の將兵と同じ心で、あひたづさへて總力戦に向かつてゐるときに、南方から物資がたくさん来るから暮らしも樂になるし、もう産業の統制などいらない、昔のやうに勝手氣儘なやりかたに戻るのでといふ考へを持つ者があれば、そこに心のゆるみができ、敵はずぐこれにつけてこんで謀略の手を擴げて来る。かういつた心の崩れから國內の團結をやぶり、國の力を弱めることのないやう、おたがひに氣持ちをひきしめて、言葉をつゝしみ、流言飛語にも氣をつけねばならぬ。

國民全部が心をついにし、めいゝの持ち場持ち場で國策に協力して働いてこそ、國家の生産は擴充され、軍備は充實し、戦ふ力はますます強固なものとなる。私どもは國家の必要に勇んで應じ、あくまで生産力の擴充を推し進めよう。

(二) 勤勞こそわれらの力

働く者の力は大きい

生産にたづさはる私どもの責任はまことに重い。平素の二倍も三倍も力のかぎり働かなくてはならない。陛下の御ため、この戦争のお役のためならば、働いて働いて思ひのこすことは何もない。

今日よりは顧みなくて大君の醜の御楯と出でたつわれは
大君の御召しにあづかつた自分は、何事も顧みることなく、つまらぬ身ながら大君の御楯となつて、命を捧げようといふこの心持ちで、私どもの分擔である生産に、ゆるぎなくすばらしい成績をあげ、總力戦の最後の勝利者とならう。私どもの一振一打が征戦完遂の歩みであり、引く圖面の一線一畫が東亞建設の土臺である。雨にも負けず、風にも負けず、大地を耕す一鍬々々が國を支へる力で

戦争に勝ち抜くために

ある。精魂を傾けて滴る汗は無駄に流れるのではない。日本の歴史を動かす、日本の歴史にしみる汗である。人としてこれほどの生きがひがまたとあらうか。

職場を守り通せ

私どもの仕事は國家の仕事である。前線の將兵が陣地を守ると同じ固い意志をもつて職場を守らねばならぬ。いかなる困難、いかなる障害があらうとも、たとへ空襲があらうと何があらうと、あくまで持ち場を死守し、仕事をつらぬき通してゆくことによつて眞の日本國民である名譽を得、責任をはたし得る。そしてまた、このやうに職場々々において働き抜くこと、それがそのまゝ、身心を錬り磨くことでもある。學校で集團勤勞作業などを盛んにやるのも、大いに働き大いにつとめなければ、りつばな國民となることができないからにはほかならない。職場こそは私どもがうんと働いて腕を磨き、工夫研究を重ねて、かぎりな

く向上してゆける所である。工場を向上學園とよぶ人の心がけにはゆかしいものがある。「機械は正直です。私には無生の機械が一日の希望です。今日も楽しく過ごしてゐます。俗世の汚れを見る時、清淨な機械こそ唯一の自己の大師であるやう慈父であるやう感じます。」と感想を述べた少年工がある。毎日々々自分といつしよに働いてくれる機械に、「今日もよく働いてくれた、明日も頼むよ。」と愛情こめて分解や油さしをしてやらすにはをられない。道具や資材を愛して、それと一つ體となり、あらゆるものに眞心をもつて身も心もうちこんで働く時には、無生のものにもあつと働く人の心が通ひ、りつばに仕事が出来上がる。これが働いて働き抜く精神をもつて、國家に御奉公してゐる日本人のすがたである。

心血を注いで

戦争に勝ち抜くために

飛行機をつくるある工場では、自分たちの血と汗をこめた飛行機が出来上がると、その飛行機にしめなはを張つて「この飛行機がつ、がなく飛べるやうに」と拜んでゐる。働いて出来上がった製品に自分の息が通ひ、身も心もうちこんで働けば必ず神に通ずるといふ信念は、日本人の勤勞の眞心から出るいちばん尊いものである。これこそ日本人が持つてゐる偉大な精神力であり、大和魂である。落下傘部隊の勇士たちは壯途につく前に、身につける落下傘を神棚にまつり、必ず開いて任務がはたせるやうにと祈願してゐる。ある落下傘をつくる工場では、この寫眞を作業場に掲げ、「私たちのつくる落下傘を兵隊さんはこんなに大切にしてくれるのだ。」と全員不眠不休で頑張つたといふが、神に祈つて勇躍敵に向かふ第一線の將兵の氣持を思へば、私どもの身内には仕事に魂をこめ、生産をおしすゝめる力があつて湧き上がつて来る。眞劍に働き抜く日本人のこの精神の發露するところ、敵米英の面前にわが生産の威力が

のこりなく發揮される。

力をふるつて働かう

みづからは働かず、人に働かせ、自分だけの利益をはかつて、とかくうまい汁を吸ふことばかり考へてゐた米英人が、生産に奉公のまことをつくし、勤勞の精神に生きる日本人の前に屈する時が來た。

今や工場でハンマーを振るふ人も、鑛山(やま)で鶴嘴を打ちこむ人も、農村で食糧増産に勵む人も、商業にいそしむ人も、通信や交通運輸に従ふ人も、それ／＼の職場で働くことがそのまゝ、戦争に参加してゐるのだ。名譽の戦傷で歸還した人々はもちろん、尊くも英靈となられた方の遺家族の人々も、いつその御奉公を勵まうと立ち上がつてゐる。職場で天皇陛下萬歳を叫んで斃れた人もある。戦争に勝ち抜くために、私ども日本人は灼熱の鐵火となつて

戦争に勝ち抜くために

働きに働き抜かねばらぬ。

(三) ふだんの生活が戦争である

鍛へた體

かうして國家の御奉公のために働き続け、日本國民としての名譽と誇りを持つて、職場の心構へをしつかり固めよう。それにはまづ健康な體に逞しい元氣が満ちあふれ、晴れやかな心で仕事の能率を上げることが大切である。はじめて職場にはいつた少年工はかう書いてゐる。「左の手にタガネを持ち、右の手にハンマーを持つて鐵板をなぐる練習である。これが上手にタガネをなぐらず、最初は手の拇指をなぐつてしまつた。そのつぎも、そのつぎも、またそのつぎも、なぐつてしまふ。しまひには人間のいちばん大切な血まで流れさせる。自分は高等科まで出してもらひ、またそのうへ病氣になれば夜もろくろくねむりもし

ないで看護してくださつた父母に對して、今まではあたりまへだと思つてゐた。それが自分の血まで出して、仕事をした時、實にはじめて、親の心持ちがしみくとわかつた。自分とはとてもうれしい。りつばな明かるい花が心に咲いたやうな氣持ちがする。「働いてはじめて知る親の恩。體をこはさぬやうに、悪い遊びに誘はれぬやうに、元氣で働いてゐてくれるやうに、親はいつも思つてゐてくださる。親から與へていたゞいたりつばな體を夜遊びやふしだらな生活でこはしたり、不注意や不養生で傷めたりするやうなことがあるれば、親はもとより國家に對してまことにあひすまぬ。

爽やかな大氣のもとに、日の光りを浴び、みんなで氣持ちを揃へて體操をするなど、體に氣をつけ、毎日の生活にしまりをつけて、つねに健康をたもち、武道や水泳・登山などで丈夫な體をいつそう頑健に鍛へあげていつてこそ、私ども日本人はいよく大東亞諸民族の指導者として、先頭に立つて働いてゆけ

戦争に勝ち抜くために

る。戦争をやり、建設をやるには、物や金だけではやつてゆけない。かういふ強い健康な日本人がいくらあつても足りないくらいであつて、これから約二十年の間に内地人口を一億にしなくてはならないといふのが、今日の我が國の目標である。私どもが健康な何一つ病氣のないりつばな體を持った父となり母となることによつて、つぎの時代を背負つて立つすぐれた子供をたくさん生み育て、「生めよ、殖やせよ」の國策に應ずることができぬ。

明かるいゆとり

健康な體で日々仕事を續ける緊張した生活のうちにも、楽しみがなくてはならない。だがその楽しみは、明日の働きへの力をつける楽しみでありたい。よい音楽や映畫や演藝をはじめ、身心の疲れを十分に休ませ、はりきつて仕事ができるやうな楽しみは必要である。さらには楽しみによつて自分の人柄を高め、

心を磨くやうにしてゆきたいものだ。一日のうちの僅かな時間でもラジオをきいたり、讀書をしたりして、おたがひに生活を反省してゆくやうにすれば、職場で身についた腕に一だんと磨きがかけてゆくものである。

楽しみといへば、すぐ料理屋やカフェーを思ひ、先輩や友だちに誘はれて飲み食ひすることだと思ふものがあるかもしれぬが、前線の將兵のことを思ふならば、たうていこんなくだらぬことに、貴重な金と時間と物とを無駄にしてはをられないはずだ。こんなことでなければ楽しむ方法がないと思ふやうなものがあれば、それは大國民の恥である。このやうな遊びにふけると、浪費(むだづかひ)のくせはつくし、健康には悪く、したがつて國家からあづかつてゐる大切な仕事にもさしつかへるやうになるし、敵はこのありさまを見て、日本人はもう戦争に疲れて遊びだしたぞといひふらすであらう。こんな楽しみは敵が送る麻醉薬だと思はなくてはならない。

戦争に勝ち抜くために

浪費は敵

浪費や贅澤は戦争の目的完遂の大きな敵だ。それは現在の物資を無駄にするし、貯へておかねばならない金をまき散らし、國民の體力を低下させ、國力を弱める。バターン戦線の米國兵は要塞の中で酒色や賭博に遊びたはむれてゐた。マレーで脆くも退却した英軍のあとをみると、世界中の罐詰が九十二種類も山のやうにあつたといふ。贅澤に慣れきつた生活からは、紀律正しく力強い軍隊は決して生まれぬ。日本の軍隊は握り飯だけでも、いくらでも頑張る。この逞しい力は國民の質實剛健な生活によつて養はれて來たものである。戦争をよそに浪費をし、飲食に耽るやうなことがあつては、國家の總力をあげて戦ふ長期戦にうち勝てるものではない。それにめい／＼の一身一家としても、日頃用意の貯へがないと、いざといふ時たちまち困つてしまふ。少し

ぐらの餘分にお金や物をつかつて、自分一人の僅かなものと、考へる人があるかもしれないが、みんながかういふ気持ちで同じやうにお金をつかひ、物を無駄にしてゆけば、國全體としてはどういふことになるか。

私どもが戦つてゐるこの戦争には、支那事變以來今までにだいたい日清戦争の二百三十五倍、日露戦争の三十一倍の戦費がかつてゐる。これだけ大規模な戦争を國力をあげて戦つてゐるのである。また大東亞共榮圏といふ大世帯を確立するその建設にもたいへんな金がかかる。これはみんな、税金その他の國家の收入と、私ども國民の貯蓄とによつて賄はれる。國家の臺所もなか／＼容易ならぬわけである。だから昭和十七年度だけでも、戦争を遂行するのに足りぬ必要な二百三十億圓の貯蓄を國民全部でやりとげなくてはならない。貯蓄を怠ると、お札が世間にだぶつくばかりで、お札の値打ちは落ち、物の値段はおさへやうもなくあがつて、何も買へなくなる。もしかうなつては戦争も、

戦争に勝ち抜くために

生産擴充もやつてゆけないし、國民の生活は崩壊する。だから私どもは一人のこらず、一錢でも多く貯金をし、一枚でも多く國債や債券を買つて、戦つてゐる國の力を強め、勝利のもとを築きあげよう。

戦時生活をうちたてよ

戦時下にあつては、贅澤は斷じて許されぬ。戦時生活に絶対必要な程度の食糧や衣料や燃料などの生活物資については、國家は十分に考へ、用意してゐるから、私どもは、生活についていらぬ不安をいなく必要は少しもない。支那事變の最中に一時マッチが不足して、「こんな物まで足りなくなつたのは支那事變のせんだ。」といふやうな流言が行はれたこともあつたが、實はその背後に、ある國のスパイの手が動いてゐたのが明らかとなつた。根も葉もない流言に惑はされて、いろんな日用品を買ひ漁るやうでは、國民の不安動搖にたえずつけこま

うとしてゐる敵に、絶好の機會を與へてやるやうなものである。戦時中は當然しのばねばならぬいろ／＼の不便はあくまでしのび、國家の對策や指導をもとにして長期戦下の生活を進んで工夫設計し、少い物資でも有効に活用して、防空にも防火にも何事によらず、おたがひに助け合ひ、協力一致團結を固めてゆかう。

盛り上がる若い力

十年、百年、幾百年續かうが、平然としてひるむことなく戦ひ抜き、堂々と大東亞の建設に進む指導者日本の大きな責任を、重く擔つてゐるのは、青年子女の若々しい力である。昨年十二月八日以來、若い人たちの間には明かるい大きな希望が湧き、この大御代に歴史にかつてない大事業をなすとげる榮譽と誇りとを自覺した逞しい力が盛り上がつてゐる。身をなげうつて國家のために奮勵するこの若い、強い力は、國家にはかけがへのないものである。

自分さへよければ、人のことはどうでもよい、神や祖先や親の恩を忘れ、正義を捨てて金や物に動き、品行を亂し利慾に走る、こんな個人主義・唯物主義の態度は根本から叩き直し、若い者は若い者らしく、清く、正しく、公明正大にあつてほしい。團體で動く時だけは規律正しく、一人の時には乗り物の先きを争ふやうなことをする者はゐないだらうか。人に見てゐる時とゐない時、陰日向のある者はゐないだらうか。東亞の人々を指導する者の態度がこれであつてよいのか。

職場で働く態度や心構へが、りつばにできてゐる若い人は、やがて家をもつても、良い夫となり良い妻となつてゆける。ことに若い女性は、職場で鍛へた體、職場で養つた責任感、働きながら得る教養によつて、日本の妻となり、母となつて、丈夫な子供を生み、たのもしい國民に育てあげ、家庭を守つてゆくことができる。かういふ人たちの間から、出征する夫を門口に見送つて涙も見せぬ妻や、かはいい子を大君の御楯とさげ、黙つて神に祈る母親が出る。

それでこそ戦地の勇士たちは何事も顧みることなく大君の御ために身をすて、職場で働く夫や子供も日々職域奉公のまことをつくすことができる。若い人が正しく、逞しく、女性がすなほに強くあつて國はいよ／＼強いのである。

特別攻撃隊は二十代の青年である。山本聯合艦隊司令長官は、「兵學校卒業一年前後の若武者どもを加ふるこの決死隊が、敵港に突入して、この成果を揚げたるを思へば、いまの若い者は、などと口はゞつたきことを申すまじきこととし、しかと教へられ、これまた感泣に堪へざるところ」とまでいはれた。特別攻撃隊の働きを思ひ、司令長官のこの言葉を聞けば、何としても奮ひ起たすにはをられない。鐵石の意志をもつて國家の期待に報い、責任を全うして身も心も天地に恥づるところのない若い人たちが、「先づ青年から」の意氣込みで、産業の第一線にも、現地の仕事にも、身をなげうつて立ち上がつて行く時、敵は壊滅し、大東亞の建設はみごとに成就する。

戦争に勝ち抜くために

むすび

今ぞ、このとき

戦ひ抜かう。戦争はまだこれからだ。緒戦の戦果は大きく輝かしく、全く世界の驚異であるが、これに酔つて、長期戦に對する覺悟を忘つてはならない。敵はすでに大東亞の天地に無力のやうであるが、大陸にはなほ、はなはだしつこい蔣介石軍や共産軍がある。米英としてもこのまゝ引き下がつてゐるはずはなく、空襲に、海上ゲリラ戦に、その他種々の手段をもつて反撃を試みるであらう。また北方の護りもゆるがせにしてはならぬ。恐れず侮らず、私どもは絶対必勝の態勢を固めてゆかう。

新しい世界が生まれる

日本と志を同じくする盟邦獨・伊は歐洲に新秩序をたてようと地中海に、アフリカに、大西洋に、米英に對する戦果を繰りひろげ、ソ聯との戦ひも續けてゐる。米英は大きな領土を抱へ、他國を操つて自分本位に世界を動かさうとするやり方をなほもあらためず、南米や西亞の諸國にまでいろ／＼と策動してゐる。しかし、米英の世界支配の野望によつて築かれようとしてゐた古い世界は、いたる所で日一日と崩れつゝある。世界の上に大いなる希望の朝が訪れてゐる。世界の國々があひともに榮える新しい世界が、やがてがつちりと組み立てられる。

新しい東亞が生まれる

むすび

すでに滿洲國は輝かしい十年の發展をとげ、國民政府また支那において着々その基礎を固め、泰も佛印も我が國と親密な關係を結び、あひともに新秩序建設のため心から協力してゐる。さらに見よ、戦果に輝く南方諸地域は新生の光りに溢れ、マレーや昭南島、ビルマやフィリッピン・東印度諸島に響く建設の音が耳もと近く聞こえて来る。大東亞十億をこぞる力強い進軍は始まつたのだ。印度よ、濠洲よ、新しい東亞の建設に遅れるな。日本は大らかな胸を開いてあらゆる東亞の民衆と手をたづさへようと呼びかけてゐる。あゝ、この廣大な大東亞の地域に、御稜威のもと正しい建設が行はれる。史上たぐひのない輝かしい大仕事を背負つて私どもは立ち上がった。

先頭に立つて

大東亞建設の先頭に立ち、世界の平和をもたらしべき日本の底力はゆるぎも

しない。堂々と戦ひつゝ、國力は隆々と伸びてゆく。滿洲事變や支那事變を通じて鐵・石炭・大豆など大陸の資源を開發し、今また米英が獨り占めにしてゐた南方の石油・錫・ゴム・砂糖・米・麻等々を豊富に東亞共榮圈のために用ひるところとなつた。これらの資源を確保し、武備を固めて敵を壓倒し、雄大な氣魄をもつて建設を遂行するのだ。不動の決意、鐵壁の構へをもつて大東亞戦争をやりとげるのだ。

われら榮えある日本臣民

私どもはこの大仕事に身を捧げ、力を盡くして、八紘(あめのした)を平和な一家とすることを念願あそばされる天皇の大御心にそひたてまつらねばならぬ。宣戦の大詔の中には、

朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵

むすび

精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國
家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコ
トヲ期セヨ

と仰せられてある。大詔を奉戴して戦争に勝ち抜くために、たゞの一人でも心
を弛めてはならぬ。天皇陛下には、もつたいなくも、

朕ハ汝有眾ノ忠誠勇武ニ信倚シ

とまでも仰せられた。あゝ、私どもは日本臣民である。天皇の御民である。

御民われ生けるしあり天地の榮ゆる時にあへらくおも

へば

萬葉の歌人が、榮えゆく聖代に生まれあはせた御民として、ほんたうに生き甲斐
があると喜び勇んで國に盡くしたこの氣持ち、これが現在の私どもの氣持ちで
なくて何であらう。

戦争はこれからだ。困難は前途にまだくつものるかもしれぬ。だが困苦缺乏
何のその、われに絶対必勝の信念があり、洋々たる希望がある。英靈よ安かれ。
私どもは必ず勝ち抜いてみせる。よし、何でも来い、命のかぎり、根かぎり、
戦ひ抜かう。

昭和十七年三月二十八日印刷
昭和十七年三月三十一日發行

教 學 局

印刷者 內閣印刷局

(不許無斷複製並轉載)



製本控

917	函	326	號	年	月	日
大东亚戰爭史						
備考	册					

3904
Ma.31

